

乗雲

寺報

第109号

1985年4月創刊

R2.5.1 発行

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560

編集人
広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

道元禪師御一代記押絵

9



最後のご説法

道元さまは永平寺に十年間過ごされたが、建長四年の夏頃から体調をくずされ病の床に臥されることが多くなりました。余命いくばくもないことを思い、翌年一月弟子たちを集め、「八大人覺」という修行の心得を説かれ、永平寺を弟子の孤雲懷奘にゆずられた。

道元禪師御一代記



『念じてください、日に月に星に手を合わせて。念じてください、木に石に地球に額をつけて。念じてください、病に苦しむひとたちのために、貧しさに泣くひとたちのために、瘦せ細りゆく難民たちのために。念じてください、少しでもお役にたつことのできる人間になることを。そして生きてきてよかったと自分に言える一生であるように。二度とない人生だから、かけがえないこの身だから』

坂村真民

祈念する、祈り念じる、人間の考えの及ばない不思議な力、これが「祈り、念」です。今世界中で新型コロナウイルス感染症が蔓延しています。収束の目処も立っていません。祈りで治療はできませんが、神仏に祈りを捧げる、そこに救いの力はあると思います。収束を祈る、いつも心に思う、そして自分も日常の生活を正し、感染拡大につながる行動をしない、

あらゆる感染予防の努力が必要です。山中伸弥教授のホームページには、「新型コロナウイルスはすぐそこにいるかもしれないと自覚することが大切です」「桜は来年も必ず帰ってきます。もし人の命が奪われたら、二度と帰ってきません」、まさにその通りです。小さなお子さんから若者、お年寄りまですべての人が感染を免れません。

お釈迦さまの最後の説法「仏遺教経」には「不念」が説かれています。「もし念力堅強なれば、五欲の中に入るといえども、為に害せられず。たとえば鎧をきて陣に入れば、すなわちおそるる所なきが如し、是れを不念と名づく」しっかりとした「念」をもつていけば、五欲(財欲、色欲、食欲、名譽欲、睡眠欲)の中にあつても負けることなく、何事にも動じない鎧を身につけているようなものである。いつも念を失わず、世界の安寧、平和を祈る、今世界の国々が協力してこの困難に立ち向かっています。

一刻も早くウイルスの恐怖から脱し、収束に向かいますようにと「祈りをつづけます」

令和二年 年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成三十一年・令和元年
三回忌	平成三十年
七回忌	平成二十六年
十三回忌	平成二十年
十七回忌	平成十六年
二十三回忌	平成十年
二十七回忌	平成六年
三十三回忌	昭和六十三年
五十回忌	昭和四十六年
百回忌	大正十年

▼令和二年(2020)の年回表です。

当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正当各家には昨年十一月中旬に通知していますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせください。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。